



考 動

川西市立東谷中学校
学校便り No. 2 (31. 4. 24)
発行者 校長 足立 仁志

<保護者の皆様へ> 今年度の教育方針について

学校教育目標 「自ら考え行動する思いやりのある生徒の育成」

昨年度、学校教育目標を上記のように変更しました。これが、東谷中学校が目指す生徒像でもあります。東谷中学校の教育活動は、全て「自ら考え行動する思いやりのある生徒の育成」を目指して行うこととなります。

現在、学校が非常に落ち着いた状態にあり、授業をはじめとする学校生活では、規律が守られています。問題行動やいじめは比較的少なく、遅刻や保健室への来室者も非常に少ない状態が続いています。また、生徒たちは学習だけでなく部活動や行事などでも、自分に与えられた課題に真面目に取り組むことができている。途中であきらめることなく、最後まで努力を続けることができるのも本校生徒の良いところです。学校生活の基礎にあたる部分は、非常にしっかりしていると思っています。学力調査の結果も、非常に良好な状態にあります。

課題は、この基礎の上に何を積み上げていくかです。生徒たちにこれからの社会をたくましく生き抜いていく力をどのように身につけさせ、伸ばしていくかが課題です。

2. 3年生の保護者のみなさまには既にお伝えしていますが、そのための手段のひとつが、コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度導入校）です。この制度の導入により、「地域でどのような子どもたちを育てるのか」「何を実現していくのか」という目標を、学校と地域住民や保護者が共有しながら教育活動を実践していくことになります。何分初年度となるため、どこまでできるかはわかりませんが、生徒が先生以外の大人から学ぶ機会や、今ある知識を活用する場面を教科の授業時間以外に設けるなど、何ができるかを模索しながら取り組んでいきます。また、地域活動に生徒が主体的に参加できるようにするなど、地域との連携を積極的に進めていきたいと思っています。

今年度の主な取組と変更点

○キャリア教育について

3年生は、今年度、文化祭で合唱に取り組むため、合唱祭を行わないことになりました。その結果、今まで行事の準備等に充てていた時間を、その他のことに振り替えることができるようになります。キャリア教育を柱とした、自分の生き方について学び考えることができる時間や、自分の考えをまとめ、発表することができる時間を創設したいと考えています。特に、キャリア教育については、様々な大人の考え方に触れ、自分のより良い生き方について考える機会にしていきたいと思っています。

○英語教育について

グローバル化が急速に進展する現代社会において、今後、外国語を使用する機会は格段に増えることが予想されます。このような状況を受けて、2020年度には、小学校で外国語（英語）が教科化されます。また、様々な検定試験を活用するなど、大学入試制度も大きく変わろうとしています。英語教育重視の方向性は、時代の要請であり必然だと言えます。

今年度は、新学習システムでの授業を全て英語科で行います。少人数授業の学習集団の編成を行い、きめ細やかな指導ができるようにします。特に、2年生の少人数指導においては、習熟度別指導を行い、個に応じた指導を推進していきます。

3年生においては、つまずきや遅れのある生徒に対して、放課後の時間を利用した既習事項を学び直せる機会を設けます。今後は、理解の早い生徒に対する発展的な学習についても検討していきたいと考えています。

ところが、、、今年度は英語科教員の定数を増やして少人数指導に取り組む予定にしていたが、今日現在でまだ2名の英語科教員が未配置となっています。そのことにより、少人数指導が、実施できなくなっています。教育委員会には、早期の配置を繰り返し要望しています。教員が配置され次第、少人数指導を実施いたします。

<その他の変更点>

その他の主な変更点をお知らせします。多くは、生徒の意見や保護者アンケートでの要望を受けて、改善について検討し、変更することになったものです。

○定期考査前の部活動について

従来、定期考査1週間前から部活動は活動停止としていました。部活動では、今年度から必ず週2日以上 of 休養日を設けることになったため、活動停止期間を1週間から5日に変更しています。定期考査直前の活動停止期間は少なくなりますが、月全体でみると昨年度よりも部活動のない日は増えることになります。今まで以上に計画的に学習することで、対応するよう指導していきます。

○1学期中間考査について（5月15～16日）

今年度は、4月から5月にかけて10連休があるため、1学期前半の授業時数は例年より少なくなっています。そのため、1年生では、一定のテスト範囲を確保することができません。従って、1年生の1学期中間考査は行いません。

○家庭訪問について（5月10～15日）

全家庭への訪問を実施するのは1年生のみとし、今年度も2. 3年生については、希望されたご家庭にのみ行います。昨年度は、家庭訪問期間中、1年生は授業のない午後は下校し、部活動開始時刻に再登校していました。時間や労力の無駄と安全上の問題が指摘されていました。家庭訪問期間を、部活動のない中間考査前に設定することで、1年生が再登校する必要がないようにしました。

○置き勉について

置き勉（学校に教科書・副読本を置いて帰ること）については、学校全体としての明確なルールはありませんでした。今年度は、家庭で必要となるものは何かを自分が考えて持ち帰ることとなります。宿題のある教科などを各自が自分の責任において確認し、持ち帰る荷物を決めることとなります。

○タイツの着用について

冬場のタイツの着用については、生徒・保護者両方から要望がありました。昨年度末から風紀委員会で着用に向けて検討していますが、年度内にルール等を決定するまでには至りませんでした。引き続き今年度、着用許可に向けて風紀委員会で話し合うことにしています。

これからの教育には、激動の時代をたくましく生き抜く力の育成が求められています。時代の変化に伴い、学校教育に求められるものも変わっています。東谷中学校が今まで大切してきた伝統をしっかりと守りながらも、改善すべき点があれば、今後も積極的に見直しを進めていきたいと考えています。